



土木

取扱いやすい軽量土木資材として使用されています。
軽量盛土資材、擁壁の裏込め材、岸壁背面の軽量盛土材など
土木分野で需要急増中。



道路上の軽量盛土



岸壁背面の裏込め



擁壁背面の裏込め



緑化

植栽工事や屋上緑化などの工事で植物が育つために
大切な土壤環境を整える資材として使用されています。



緑化・植栽工事



屋上緑化



人工軽量土壤



農業

農作物が育つための土壤環境づくりに活用されています。
スーパーソルを使用する事で土の締め固まりを抑制し
排水性・通気性を向上させる事が出来ます。



暗渠排水資材



土壤改良材



ベンチ栽培



これにより、これまで製造者と購入者の間で都度確認をしてきた製品の品質やその評価方法が統一され、効率的な取引の拡大に繋がることが予想できます。また同製品の普及が促されることによって、持続可能な循環型社会の構築が一層進むことが期待されます。

日本産業標準調査会（JIS C）のHP（<https://www.jisc.go.jp/>）から、「Z7313」でJIS検索すると規格詳細を確認できます。

「ガラス発泡リサイクル資材」は地盤材料や、造園・緑化材料などの用途別に必要とされる密度や吸水率、硬さなどの品質基準、また、それらの測定方法を規定しました。

(注1)
ガラス発泡軽量資材を市場に供給する事業体を支援し、社会的普及を目指して開発及び普及活動を行う団体で、現在全国12自治体の13社が加盟



JIS制定の取組報告会
トリムの坪井巖社長（左から2人目）、沖縄総合事務局の本道和樹 経済産業部長（左から3人目）

沖縄初のJIS制定の取組報告について

～廃棄ガラス瓶のリサイクル拡大を目指して～

1. 廃棄ガラスリサイクル製品の利用拡大を目指して

沖縄総合事務局経済産業部では、これまで利用用途が少なく、ほとんどが廃棄されてきた廃ガラス瓶の活用に向け、株式会社トリムが行う研究開発、販路開拓を支援してきました。同社が中心となるガラス発泡資材事業協同組合（注1）は、JIS規格（日本産業規格）を提案し制定されました。これは沖縄で技術開発された製品として初の規格化となります。

2. 廃棄ガラスリサイクルの課題

経済産業部では、環境と経済が両立した循環型社会を形成するため、3R広報活動や、立入検査などにより法の遵守を徹底するとともに、環境ビジネスを応援してきました。

しかし、国内に数多く流通する透明及び茶色の瓶は、色別に回収ができる限りサイクルが容易ですが、その他の色の瓶に関しては再資源化が複雑で、ボトラーによる配合成分が異なることから新たに瓶を製造すると微妙な色の違いが生じる為、品質維持が困難であり課題となっていました。

3. 環境ビジネスへの支援状況

株式会社トリムは、「捨てればごみ、活かせば資源」を合い言葉に、色合いが異なる廃ガラス瓶を破碎・粉碎及び焼成発泡させる製造工程により、吸水性があり無機質で耐火性に優れた多孔質構造のガラス発泡リサイクル資材（スレーブーソル）を開発しました。

経済産業部では、同社に対して平成8年度から技術開発支援、平成14年度からOKINAWA型産業振興プロジェクト（産業クラスター計画）の一環として、国内環境展出展による販路開拓・全国展開支援、平成21年度の「ガラス発泡資材事業協同組合」設立による自立化・組織化支援、平成29年度から標準化支援を行いましたところ、同社の努力が実を結び、リサイクル資材は現在、造園、緑化、土木、農業、浄化、建設などの幅広い分野で活用され、リサイクル製造プラントは全国16カ所、海外（台湾）1箇所へ導入されに至り、着実に事業拡大しています。

